

見附動物病院

星 克一郎 先生

KATSUICHIRO HOSHI

予防していますか？ 猫も感染するフィラリア症



■ はじめに

犬の飼い主さんはよくご存知の病気かと思いますが、フィラリア症は「蚊」が媒介する寄生虫疾患です。命に関わる危険な病気なので毎年の予防が重要になります。このフィラリア症は猫にも感染することがあり、猫にとっても危険な病気であり、犬と同様に予防が重要となりますのでご紹介したいと思います。

■ フィラリア症って？

フィラリア症は「犬糸状虫」と呼ばれる寄生虫による感染症の一種です。犬糸状虫は呼び名からも想像できるように本来「イヌ科」の動物が感染する寄生虫ですが、ヒトを含めた様々な哺乳類にも感染することが分かっています。この犬糸状虫は「そうめん」の様な白く細い形をしており雌雄に別れています（図）。本来、肺血管の中に寄生しているのですが雌雄が揃うことでミクロフィラリアと呼ばれる子虫を産みます。ミクロフィラリアは全身の血管を巡って「蚊」の吸血によって蚊の体内に取り込まれると蚊の体内で成長（脱皮）し、感染した蚊が他の動物を吸血した際に幼虫が感染します。新しい動物の体内に取り込まれた幼虫は成長（脱皮）しながら脂肪や筋肉組織の中を移動し、最終的には成虫に成長し肺血管の中にたどり着きます。このように犬糸状虫は蚊の媒介によって感染し体内の様々なところを移動しながら成長していきます。

■ 犬とは異なる猫の病態

フィラリア症は犬においては感染した犬糸状虫のほとんどが成虫に成長して肺血管および心臓に寄生するため肺血管内の血圧が上昇（肺高血圧症）することで肺血管に血液を送り込む右心室に負担がかかり腹水貯留などの右心不全を引き起こします。一方、猫においては本来の宿主ではないため感染した犬糸状虫は成虫にまで成長できずほとんどは肺血管にたどり着いた段階で死滅してしまいます。

また、猫においては本来寄生する場所以外（眼球内、脳神経内、お腹の中など）に寄生する事もあり視覚障害や神経症状を発生する場合があります。肺血管で成虫にまで成長した犬糸状虫の数は犬に比較して少なくわずか1-2匹程度（犬では多ければ100匹以上も）であるため犬のような心不全は引き起こしません。しかしながら猫は本来の宿主ではないため犬糸状虫に対して「過剰」に生体が反応してしまいます。猫においては三つの大きな経過に分類されており最初の第1病期は肺血管にたどり着いた幼虫が死滅するときに発症します。その際には呼吸器症状を中心とした症状が認められますが、一過性であったり元気食欲の低下だけであったりとはっきりとしない症状が認められます。第2段階は肺の血管内で成虫が死滅した際に発症します。このとき猫の肺血管内では死滅した成虫が肺血管を塞栓（詰まること）し重度の炎症が起こります。20%もの猫が持ちこたえられず突然死すると報告されています。この第2病期を持ちこたえた猫も炎症を生じた肺は慢性的な機能不全を呈しており咳や呼吸困難が持続します。このように猫では呼吸器症状やはっきりとしない症状が引き起こされます。

■ 診断・治療が難しい

猫では、犬と比べてフィラリア症を診断することが大変困難です。様々な検査を利用するものの、どの検査法も確実にフィラリア症を検出できるものではありません。そのため、いくつかの検査を組み合わせることでさらに繰り返し検査することで総合的に判断していきます。診断することが難しいため、亡くなった後の解剖でフィラリア症が判明するケースもあるほどです。治療に関しても困難であり、いったん感染してしまった犬糸状虫を安全に駆除する方法が確立されていないため、成虫の感染が判明している場合でも成虫が自然に死んでいくまで、定期的に観察していくことが推奨されているほどです。

■ 予防は簡単確実

診断・治療が困難な猫のフィラリア症ですが予防に関しては有用な薬が開発されているため確実に予防することが可能です。猫用の予防薬は回虫やノミなど他の寄生虫にも効果を発揮するのが販売されているため一緒に予防することが可能です。フィラリア症は「蚊」が媒介する病気であり、蚊に取り込まれた犬糸状虫の幼虫の成長には一定以上の気温が必要であるため予防する期間は地域によって多少異なりますが、猫も犬と同じ期間定期的に予防薬を使用します。

■ さいごに

猫のフィラリア症はイヌよりも感染する可能性は低いものの、場合によっては命の危険に陥る可能性のある危険な病気です。診断と治療が困難である病気であるため予防は犬と同様に重要になります。家の中だけで生活している猫でも感染することが報告されているため猫の飼い主さん全員に考えていただきたい病気です。

■■■ 次ページで犬糸状虫の写真をご紹介します（苦手な方はご注意ください）

- 犬糸状虫
手術で猫の心臓から摘出した成虫。8匹もの成虫が摘出された。

